

● 森林活用の達人？

県内初の森のようちえんが森林文化アカデミーで誕生してから6年。幼児期に毎日森で過ごした一期生は今、小学生です。たった6年の経験ではありますが、森が子どもたちの成長の場として理想的な空間であることを日々実感しています。森で育った子どもたちはまさに森林活用の達人です。また、彼らの姿から森の新たな活用方法も見えてきました。

● 脳刺激のワンダーランド

脳科学者いわく、人格形成を司る脳の部分は7歳までに成長を止めてしまうそうです。その成長を促すのが幼児期の五感への刺激で、森はその環境として最も理想的だとか。

確かに森は五感ワンダーランド。無数の色と光や動き、草花や土・雨やけもの匂い、野いちごやイタドリ、小さな手を刺激するキノコやコケ、耳をくす

「眠れる森のビジョン？」

岐阜県立森林文化アカデミー ● 准教授 萩原・ナバ・裕作

ぐる鳥や虫の声、風や水の音…。子どもたちは森で遊ぶだけで、人工的な環境や遊具とは比べものにならないほど素晴らしい刺激を全身で享受しています。



● 最高のスポーツジム

森の地面は、凸凹や急傾斜、石や木の根などの障害物だらけ。固さや滑り具合も多様です。子どもたちは森で遊びなが

ら、バランス力や瞬発力を無意識に身につけています。事実、平らな場所で生活している子が森に来るとよく転びます。研究によれば運動能力も幼児期に決まるとか。森は最高のスポーツジムなのです。

● ハプニング遊園地

森の中は毎日が予想外。突然、大雨が降ったり、大きなアゲハが飛んできたり…。子供たちはそんなハプニングが大好きですし、それらの出来事に対してしっかりと観察・判断・行動しているからスゴイ。「生きる力」も楽しみながら鍛えています。

● オーダーメイドの教室

森では、全てがオーダーメイド。木登りひとつをとっても、ひとりひとりの能力や発達段階にぴったり合う枝や木が必ずあります。そこが玩具や教材と違います。子どもは自らの力で育つ能力を生ま

れながらにして持っています。森は、その力に応えることのできる最高の教室です。

● お母さんが優しくなる

森に入ると、リラククスするせいとお母さんが優しくなります。せかさないし、泣きたいだけ泣かせてくれます。そのおかげか、子どもたちは「自ら育つ力」を邪魔されずに、自分のペースで成長できます。森ってちょっと不思議です。

● 岐阜の眠れる森の美女

このように、森には「子育て」「健康」「教育」「レジャー・観光」「自由な学び」といった空間を活用した莫大な経済的価値やビジネスチャンスが、たくさん眠っています。

この「眠れる森の美女」の目を覚まし「森の中の自由ながっこう」や「森の遊園地」など、ケンブリッジ大もデザインランドもアッと驚くような空間を岐阜の森から提案していくのが、私の当面のビジョンです。

